

みんな生き生き！

老人クラブ



気分も華やかに「チャリティーダンスパーティー」

急速な高齢社会を迎え、誰もが願う「豊かで充実した老後」生涯現役の気持ちでサークルや地域活動に参加するお年寄りの表情は、皆明るく輝いています。今も昔も、お年寄りの活動・交流の中心であり続ける身近な存在「老人クラブ」をご紹介します。

急速に進む高齢化

国の研究所の試算によれば、二〇五〇年には、わが国の人口の三人に一人が六十五歳以上という「超高齢社会」が到来すると予想されています。

札幌市の場合でも、高齢化のスピードは早く、毎年約一万九千人の方が六十五歳の仲間入りをしています。

こうした高齢人口の増加に合わせ、お年寄りの生きがいや健康づくり、仲間との交流・活動の場づくりが求められており、老人クラブはその使命を担う存在として注目されています。

「老人クラブ」は、高齢者の知識や経験を生かし、生きがいと健康づくりのために、いろいろな活動を通じて、高

齢者の生活を豊かなものにすることを目的に組織されています。

仲間との交流を持つことで、独りではないことを実感し、みんなで助け合いながら、ともに楽しむことのできる、生き生きとした活動の場を提供する—そのような役割を果たしてくれているのです。

白石区の老人クラブ

主に六十歳以上の高齢者が会員となっており、区内では約三千二百人の方が加入しています。

現在、区内には地域を単位とした三十六のクラブのほか、これらの集合体として、白石区老人クラブ連合会（区老連・堤繁雄会長）が組織されており、それぞれが多彩な活動を展開しています。